

2017  
フォローアップ  
市 研修会

新潟子どもサ  
¥1,000-/会員・賛助会  
¥1,200-/一般生  
¥500-/当事者・学生

入権が守られる  
精神保健医療福祉  
を指して

in 新潟  
2017  
12/2 Sat

supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

## ■研修会テーマ

「人権が守られる精神保健医療福祉を目指して」

## ■開催にあたって

日本は精神科病院の入院患者が多く、2014年の調査では28万9000人。うち18万5000人が1年以上入院しているという驚くべき現状がある。しかし、その現実が社会に知られているとは言い難い。

東京都西多摩エリアは日本の中でも精神科病院数が多く集中して存在する。この現状下で、はらからの家福社会の伊澤さんは長期入院する人に対し、粘り強く地域移行を働きかけている。研修会当日午前の部ではその活動が報告される。

また、2017年5月、ニュージーランド人のケリー・サベジさんが神奈川県内の精神科病院内で身体拘束された後に27歳という若さで死亡した。ケリーさんには双極性障害(そううつ病)があり、治療しながら九州の小中学校で英語を教えていた。当時、症状が悪化し、4月末に措置入院後すぐに両手両足、腰をベッドに拘束された。身体拘束は続き、入院から10日後に心肺停止。転院先で亡くなった。体を長時間動かせなかったことで血栓ができ肺塞栓(そくせん)症を起こしたエコノミークラス症候群の可能性が高い。この事件を受け、今回のケースは氷山の一角であって、過去に表面化していないものが数多く存在するのはという疑問から、現在、サベジご一家と今回の講演講師の長谷川さんにより「精神科医療の身体拘束を考える会」を発足させ、こうした事例をなくすために活動行っている。

実際、厚生労働省の調査では2014年6月末に精神科で身体拘束を受けていた人は1万682人。10年前に比べ倍増している。長谷川さんが11精神科病院にたずねた調査では、身体拘束の平均日数は96日にも及んだ。「数時間から数十時間程度」という海外の実態と比較し、非常にかけ離れている。この現状について詳しく講義を受ける。

さらに、近年、精神科病院に長期入院するご本人とご家族をめぐる入院情勢に大きな変化が現れている。今年3月、厚労省社会保障審議会障害部会から、今後、精神科病院に長期入院する人に対し、「重度かつ慢性」という新たなカテゴリーを考案され、それ以外の入院患者の地域移行を目指すという提案があった。これについて、全国の障害者団体や支援団体などからは反論の声が上げられている。欧米諸国では1960年代から地域で暮らし治療する形態を追求し、イタリアでは精神病院自体が廃止されている。日本は40年ほど遅れ、2004年9月に「精神保健福祉改革ビジョン」を策定し、社会的入院の解消を打ち出したが、それとは対象的な「重度かつ慢性」という基準が今回登場した。

今回の研修では、精神科領域の現状を詳しく伝え、事実を知り、お互い考える場を提供する企画となります。

地域や医療ではあまり論じられることがない、しかしごく身近で重大な出来事であり、地域生活の場面で直面する課題を知る機会として、多くの方々に参加していただきたいと願います。

## ■詳細

会場(詳細・アクセスマップは最終頁)

新潟テルサ 1号館9階大会議室

新潟県新潟市中央区鐘木(しゅもく)185-18

日時

2017年12月2日(土)

受付 9:30 開始 10:00

終了 16:25

詳細は右プログラム参照

参加費

会員・賛助会員 1000円、一般 1200円、学生・当事者 500円

定員 最大 100名



## ■当日プログラム

●9:30	受付開始
●10:00	開会あいさつ / 村山和茂 新潟県精神障害者社会福祉施設協議会 副会長
●10:10	あみ活動報告 / 金井 妙 あみ 常任理事
●10:30	報告 / 長期入院から社会で生活を実現した実例(東京都・西多摩の現場より) 伊澤雄一氏(社会福祉法人 はらからの家福祉会 総合施設長 東京都精神障害者地域移行促進コーディネーター)
11:45~13:00 休憩 (12:45~13:00:被災地状況の報告)	
●13:00	講演 / 人権が守られる精神保健医療福祉を目指して 長谷川利夫氏(杏林大学保健学部教授・精神科医療の身体拘束を考える会代表) 第1部(13:00~14:30) ○身体拘束の現状から見た日本の精神医療 ~休憩~ 第2部(14:45~16:15) ○『重度かつ慢性』は基準と言えるのか?『支援』でなく『協働』を目指そう!
●16:15	閉会あいさつ / 田中政弘 新潟県精神障害者社会福祉施設協議会 副会長
	(終了後懇親会を開催いたします)

## ■講師 紹介

### ●長谷川 利夫 氏 / 杏林大学保健学部教授・精神科医療の身体拘束を考える会 代表

東京都出身。杏林大学保健学部、作業療法学科精神障害作業療法学研究室教授。

現在、精神科医療において行われている不必要な身体拘束をなくし、その実施を縮減していくことを目指し、広範な市民と連携し会を立ち上げ運動を続けている。

- 精神科身体拘束を考える会代表
- 精神科病棟転換型居住系施設を考える会代表
- 日本病院地域精神医学会理事
- NPO 法人にいがた温もりの会理事

## ■主催

特定非営利活動法人 全国精神障害者地域生活支援協議会(あみ)

新潟県精神障害者社会福祉施設協議会 事務局  
〒959-2708 新潟県胎内市中村浜字築地原 699-128  
じょぶ倶楽部内 新精社協事務局(担当/高橋)  
電話:0254-45-5110 FAX0254-45-5122

全国精神障害者地域生活支援協議会 事務局  
〒185-0022 東京都国分寺市東元町 4-1-14 リヒテンハイム 102(担当:宮坂)  
電話:042-313-9403 FAX:042-313-9407 メール:info@ami.or.jp

